

## 宮崎県立日向高等学校が修学旅行で来星

シンガポール事務所

2010 年 12 月 1 日(水)から 12 月 5 日(日)まで、宮崎県立日向高等学校の外国語科の生徒 33 名が修学旅行でシンガポールを訪れました。当地の様々な施策について学ぶとともに、ホームステイを通してシンガポールの家庭生活を体験することが主な目的として据えられた修学旅行でした。

12 月 3 日(金) 当事務所において、シンガポールの歴史や文化、緑化・水政策をはじめとする様々な施策等について説明を行いました。今回の修学旅行において、生徒達は当地の緑化政策に最も関心を示していたため、シンガポールが独立当初から掲げている「Clean and Green Policy」<sup>(注)</sup>について特に時間をかけて説明を行いました。シンガポールと同様、宮崎県内の各自治体も地域の特性を生かした景観づくりに取り組んでおり、美しい景観づくりの必要性を住民に知ってもらうべく、シンポジウムやフォーラムを頻繁に開催し、住民参加型の町づくりに力を入れています。シンガポール政府の緑化政策の取り組みを学習し、緑豊かな街並みを実際に目にした彼らの経験や思いが、帰国後、貴重な「声」として自治体の町づくりに活かされることを期待したいと思います。



シンガポールの概要について説明

当事務所訪問後に訪れた「NEWater Visitor Centre」では、シンガポールの水政策について、センター職員より説明を受けました。NEWater は、水基盤が脆弱なシンガポールにおいて、安定した水資源の確保のための取組の一環として造られた、下水再生処理水です。基本的に、右肩上がりの経済成長を続け、先進国の仲間入りを果たしているシンガポールにおいて、原水の一部を隣国マレーシアから輸入しているという事実に、学生達は非常に驚いており、NEWater で製造された下水再生水のペットボトルをまじまじと見つめる姿が印象的でした。

今回の修学旅行において、生徒達が住む宮崎県日向市の 2 倍強ほどの大きさしかないシンガポールが、いかに所与の脆弱性を克服して国際的な競争力を高めてきたのか、その一端を学び、益々成長を続けていくであろうシンガポールに今後も関心を持ち続けてほしいと願うところです。

今日、多民族国家で国際都市であるシンガポールを、修学旅行先として選択する日本の学校が次第に増えているように感じます。アジアでも数少ない英語圏であり、英語教育の実践の場としての期待はもちろん、中華系、マレー系、インド系など様々な民族が共生・共存している社会に身を置くことで、人種や宗教、生活習慣などの違いを乗り越え、お互いを尊重する重要性を認識することができます。また、シンガポールが国を挙げて取り組む様々な先進的な施策を直に見聞きすることは、将来を担う若い世代にとっては、貴重な経験となるでしょう。

当事務所としては、今後も、自治体からの要請を受け、シンガポールに関するブリーフィングや、学校交流、公的機関への訪問などについての事前調整・情報提供などの支援を行っていきたく考えています。

(注)「Clean and Green Policy」

汚職やゴミがない街を目指す意味での「Clean」と、ガーデンシティを目指す「Green」。シンガポール政府が 1967 年から掲げている政策。

(12/3 宮崎県活動支援等)  
(中村所長補佐 宮崎県派遣)